千代田中だより

学校経営方針　「チーム千代田」

文責：本橋　一夫

坂戸市立千代田中学校　第34号 令和6年2月22日

学校教育目標
自立の力を育む
・志を立て、自ら意欲的に学ぶ生徒
・思いやりと感謝の心を持ち、集団に貢献する生徒
・心身を鍛え、たくましく生きる生徒

目指す学校像
・笑顔と感動あふれ地域に信頼される学校

第３回　学校運営協議会

２月１５日（木）に、第３回学校運営協議会を実施しました。当日は、授業参観ののち、教員による学校評価の結果についての質疑応答及び意見交換を中心に協議会を進めていきました。

主な質疑・意見の概要は、以下のとおりです。

Ｑ．特別支援学級がなくなって、教員が減ったのはなぜか。
Ａ．教員定数の関係で二人の職員が減った。
Ｑ．ＰＴＡとして防犯パトロールや通学路点検等は協力したいが。
Ａ．ＰＴＡと協力して進めていきたい。
Ｑ．指導的対応で不登校になった生徒はいるのか。
Ａ．指導的な対応がもとで不登校になったという生徒の報告は受けていない。
Ｑ．先生が丁寧に指導しているという結果が出ているが、生徒の意欲が少ないという結果も出ているのはなぜか。
Ａ．授業の方法が変わってきているため、学校では意欲的に取り組んでいる生徒は多い。しかし、家庭において学習意欲が低いという結果が出ている。
○志と学習がつながるかというと、学習だけでなく、他のもので志を立てることもできるのではないか。
Ｑ．教職員の共通理解のところで何かあれば。
Ａ．共通理解を図るうえで「意識改革改善プロジェクト」（時間・整理整頓・人権の尊重）を１２月から行っている。また、新しい教育の形を保護者とともに共通理解を図っていきたい。
Ｑ．担任任せ等の意見もあるが、チーム学校、チーム千代田で対応していくことが大切ではないか。
Ａ．何かあれば相談に乗っているが、教職員の対応によって違ってきているのかもしれない。
Ｑ．いじめの状況はどうなっているか。
Ａ．今年度ここまで把握しているのは３件。３か月以上の見届け期間を経て、全て解消している。
Ｑ．全体的に評価が下がっているのはなぜか。
Ａ．人も代わり、人数も減ったので少しでも評価が下がると全体の評価が下がってしまう。また、そのためいろいろと課題も見えてきている。
○協議会の振り返りを是非とも保護者に知らせてほしい。

今後、3回の学校運営協議会での話し合いの結果、学校評価の結果、学校見学、行事見学等を通して委員の皆様（学校関係者評価委員を兼ねる）が感じたこと考えたことなどをもとに、学校関係者評価を行っていただく予定です。なお、学校評価及び学校関係者評価の結果については、3月中を目途に本校のHPで公開していく予定ですので、ご確認ください。

保護者・教職員合同研修会

２月１６日（金）、１、２年生の授業参観・保護者会の実施に合わせ、今回新たな試みとして、ＰＴＡの協力を得て、保護者・教職員合同研修会を実施しました。講師の先生を招いて教育講演会を開催するとともに、学級懇談会では、その内容をもとにして懇談をしてもらいました。

講師の先生は、ＮＰＯ法人ＳＯＭＡ代表理事・瀬戸 昌宜（せと まさのり）氏【生態学者・農学博士（農業昆虫学）】です。

今回の演題は「これからの教育と私たち大人の関わり」です。講演会の概要は以下のとおりです（文責は本橋）。

●私たちは、正解のない子育てをはじめ、正解のない中で生きている。今回の話が、保護者・教員・生徒が共に学校を活用できることの礎となればと考える。

●生態学（エコロジー）では、環境と切り離された生き物はいない。少年のころ、その昆虫が生きている場所でどう生きているのか、観察していた。観察するということは心の底から感じること。

〇私の座右の銘は「理論は現象の後追いである。」世界は繰り返すが再現はしない。まず、その子を見よう。その現象を見よう。人の世界はどうだろう。自然同様、変わり続けている。だから、「私たちのころは……」というのは気をつけなければいけない。

〇大切なことは「自由」と「権利」だが、これは人間が作った仕組み。環境によって原理原則が変わる不自然さがある。現状把握の必要があるが、現状がなかなか見えない。自分の経験から考えると観察を狂わせる。

〇問題は環境から生まれる。問題解決から問題解消をする必要がある。環境に手を入れないと、永遠に問題が続くことになる。そのために、人が環境を整えることが問題解消のアプローチとなる。環境を整え命が安全にいられるように最善を尽くすのが親である。

〇環境とは身の回りや自然環境だけでなく、「人」「社会」も環境である。学校という環境は児童生徒、教員、保護者、地域の人々という見方もできる。

●学校で何を学ぶのか。それは、生きることと学び方である。何を知らないのかを知っていることは、現状を把握していることである。

〇教育とは何か。教え育むのか、導くのか。Education とは個人の能力を外に引き出すことである。明治時代、日本では福沢諭吉は発達、開発と名付けたが、森有礼が教育としたことで教える人が主体となってしまった。

〇「良い教育」とは、主語と目的次第である。日本語のシステムの中に入っている我々は主語を意識することが大切である。「あなた」はどうしたいのかなど。

〇生徒、教員、保護者が共に学ぶための前提をつくるための必読の書とは何か。それは、学習指導要領である。「総則」に生徒に『生きる力』を育むとある。家庭でできない部分を学校で行う。『生きる力』とは、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等である。

（この後、瀬戸さんがＮＰＯ法人で行ってきた実践の話が入ります。）

〇主語が不在になることによって、他人の幸せを喜べず、自らの幸せを喜べない。

〇「あなたはどうしたいのか」「前提が覆り続ける時代」。これからとこれまでのつながりを考えることが大切。

〇『生きる力』には、観察、問題解消、生態学的な思考が必要。

●グローバルをどう捉えるか。リアルなのか、幻想なのか。グローバルといってももう距離感はない。世界はいつも安定していない。グローバルで見ると常に大きな波の中にある。生き延びるための必殺技は英語、中国語、ヒンズー語である。これによって自分が生きていく環境を拡張していく。自己決定していく環境を増やす。生物はいつの時代も適応してきた。